■内実のわかる中小規模古墳の代表例■

野中（のなか）古墳は、墓山（はかやま）古墳の北側に位置し、その陪塚（ばいよう）の１つとみられる、二段築成の方墳です。

周囲には幅約５ｍの周濠が巡っていたとみられます。

野中古墳は、古市（ふるいち）古墳群のなかでは、規模からみれば大きな古墳とは言えません。

しかしながら、大阪大学による発掘調査で、甲冑をはじめとする各種の副葬品が出土し、中期古墳における副葬品の実態が明らかになっている点が重要です。

こうしたことから、野中古墳から出土した資料は、重要文化財に指定されています。

また、藤井寺市教育委員会による周濠部の調査では、古墳周囲での祭祀に伴うとみられる、臼玉（うすだま）などの石製品が出土しています。

臼玉の数は、４万点以上にも及びます。

野中古墳は、副葬品の様相と、古墳周囲での祭祀の様相がともにわかるという意味で、中期古墳の様相を知るうえできわめて重要な古墳ということができるでしょう。